

## いたばしお薬バッグ配付事業の実施結果について

### 1 概要

薬剤師が適正な服薬の管理・指導を行うことで、患者の重複投薬や服薬への不安解消を図ることを目的に「いたばしお薬バッグ」を作成し、一般社団法人板橋区薬剤師会と連携して令和元年12月から区内の薬局で患者の残薬調整をした結果について報告する。

### 2 配付対象者

重複服用や長期的に同じ薬を処方されている慢性疾患や要介護者等残薬調整が必要と思われる方

### 3 配付方法

板橋区薬剤師会から会員薬局（区内275店舗）を経由して配布した。

### 4 配付枚数

10,000枚

### 5 検証期間

令和元年12月から令和2年10月まで

※ 令和2年4月から6月までは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、集計を中止した。

### 6 検証結果

#### (1) 対象者の年齢と性別

年齢	人数
50歳代	7人
60歳代	15人
70歳代	66人
80歳代	95人
90歳代	17人
不明	2人
合計	202人

性別	人数
男	93人
女	109人
合計	202人

#### (2) 実施店舗数

57店舗

### (3) 削減効果

	件数	削減点数	削減金額
国保	56件	25,901点	259,010円
後期	212件	73,180点	731,800円
生保	29件	17,074点	170,740円
合計	297件	116,155点	1,161,550円

### (4) 薬を服用できなかった理由（複数回答可）

理由	人数
飲み忘れ	157人
飲み間違い	7人
自己判断で中止	16人
新たな薬の処方	15人
複数の病院から同じ薬の処方	5人
その他	27人
合計	227人

### (5) いたばしお薬バッグが役に立ったか

満足度	人数
役に立った	109人
役に立たなかった	10人
わからない	35人
不明	48人
合計	202人

## 7 効果検証

新型コロナウイルス感染症の感染拡大と時期が重なり、薬局で対面での残薬調整が困難な環境であったため、お薬バッグを配付するだけの薬局も多かった。

そうした環境下において202人に対して合計で1,161,550円の医療費の削減効果がみられ、1件あたりの平均削減額は3,910円であった。対象者の制度別では、後期高齢者医療制度が最も件数が多かった。

薬を服用できなかった理由は、「飲み忘れ」が77.7%で最も多く、「飲み間違い」と「自己判断で中止」を含めた本人の事情による理由は89.1%であった。一方で、「複数の病院から同じ薬の処方」は5人おり、服薬事故の危険性があるケースも見受けられた。

満足度については、「わからない」「不明」以外で「役に立った」が91.6%を占め、残薬調整をした方の9割以上は患者自身でお薬バッグの効果を実感できる事業となった。